岩盤ボーリング柱状図

調査名　二級河川　沼田川水系　椋梨川　災害関連事業に伴う実施設計等業務委託

事業・工事名

調査目的及び調査対象　河川　橋梁・高架

ボーリング名	ボーリングNo.1	調査位置	広島県東広島市豊栄町安宿　末永橋A1橋台	北緯	34° 33’ 23.4412″
発注機関	広島県西部建設事務所東広島支所	調査期間	令和3年 3月 3日～ 令和3年 3月 5日	東経	132° 51’ 28.0591″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 347.38m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総削孔長	8.00m	地盤勾配	38° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦DO型 / エンジン：ヤンマーNF-90型 / ポンプ：東邦製BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分
1	346.38	1.00	SGS	礫混じり シルト質砂	暗茶褐						
	345.88	1.50	MS	砂質シルト	暗茶褐						
2	345.38	2.00	S-M	シルト混じり砂	茶褐						
	344.53	2.85	SG	礫混じり砂	黄褐～灰褐						
3	344.38	3.00	sl	風化粘板岩	黄褐	w5	h4	E	Ⅶ	d	D
4			sl	風化粘板岩	青灰	w4	h3	D	Ⅴ		D
									Ⅳ		D
5	342.38	5.00				w3		C		c	D
6			sl	粘板岩	青灰		h2		Ⅲ		
7						w2				b	CL
						w3		B		c	D
8	339.38	8.00				w4	h3	D	Ⅴ	d	D
						w3	h2	B	Ⅲ	c	D
9											
10											
11											
12											
13											

コア採取率 ―×― (%)　最大コア長 ―●― cm　RQD ―― [%]

孔内水位／測定月日	標準貫入試験 N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量	原位置試験	室内試験	削孔月日	削孔速度(cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削孔水・送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
3/3 0.90	3	1.15	3					3/3			打込み／	0	0			
3/5 1.53		1.50	350							86／ケーシング						
3/4 2.20	9	2.15	9						71		S／M	200	70	0	W1／0	0
		2.45	300													
	24	3.15	24								W／M					
		3.45	300													
	26	4.15	26			現場透水				86		100	100			
		4.45	300													
	50EL	5.15	50	170												
		5.32	170					3/4			W／M			1	W2／11	11
	50EL	6.10	50	180						66		150	120			
		6.28	180													
	50EL	7.00	貫入不能						36		W／D	250	100			
	50EL	8.00	貫入不能					3/5								

記事

細砂主体で，シルトの粘性は低い。φ0.5～1cmでの軟質な亜円礫や，植物の根を含む。

シルトの粘性は高く，砂は細砂主体。φ0.5～3cmの軟質な亜角礫や植物の根を含む。

細～中砂主体で，シルトの粘性は低い。深度方向に砂の粒度が大きくなる。

中～粗砂主体。φ0.5～5cmの軟質な亜角礫を含む。2.6m付近でφ5cm程度の花崗岩礫を含む。

風化が進行し，粘土状となる。DL級。指圧で圧砕可能で，層理は不明瞭。

全体的に軟質で，風化棒状コアとして採取される。層理は概ね傾斜60°。

3.0～4.0m間は，指圧で礫状に崩れる。DL級。層理は深度方向に不明瞭。

3.9～4.0m間は，角礫状の石英脈の貫入あり。

4.0m以深で固結度が増し，5.0mまでは，DM級。

4.75m付近，幅3mmの石英脈が傾斜60°で貫入する。

固結度が増し，軟岩相当。層理は明瞭。全体で概ねDH級。

5.0～6.0m間は，亀裂面に沿って褐色に風化する。

5.9m付近，幅1mm程度の石英脈が傾斜60°で貫入する。

6.6～6.8m間で，硬質な花崗岩が貫入する。

7.0～7.4m間で，層理の方向乱れる。

7.1～7.2m間で，幅3mm以下の粘土を傾斜5°以下で狭在する。

7.4～8.0m間で，層理は傾斜20°を示す。

7.8～7.9m間は，局部的に軟質となる。DM級。